

# 代表質問

11月定例会では、浜田一哉議員(鳥取県議会自由民主党)が、県行財政上の諸問題について、会派を代表して質問を行いました。

## 鳥取県議会自由民主党

選挙区 境港市  
浜田 一哉 議員



### 中部地震からの復興

**問** 被災者に支援物資が行き渡らなかったことや車上避難に対する支援、子どもや女性に配慮した避難所の運営、福祉避難所の受け入れ対応など熊本地震の教訓を生かした対応ができたのか伺う。

**答** 当初から、熊本地震の教訓を踏まえた対応を考えていた。支援物資の末端への手配、医療スタッフ等の巡回による避難者支援に当たった。今回の地震では「絶対に災害関連死は出さない」を合い言葉にアメニティーの改善も図った。福祉避難所の設置が進んでいないところは、今年度中に協定を結ぶなどにより指定ができる予定。来年度中には、今回の地震の反省も踏まえた対策を練り直し、地域防災計画を改定する。

### 来年度予算編成について

**問** 厳しい財政状況の中でも中部地震の復興対策をはじめ、地方創生の加速化や地域経済の活性化に向けた重点的な取組については、予算を集中投下する必要があるが、どのような取り組みを重点的に取り組んでいくよう考えているのか。

**答** 第1の重点は災害からの復興である。壊れたところを直すことと、これを機に新たなことにチャレンジするといったプラス思考の復興もある。あわせて地方創生や産業創造、安心の暮らしづくりについても十分な予算と施策を割いていく。

### 子どもの貧困対策について

**問** 貧困家庭に育った子どもは、学習や進学などの面で不利な環境に置かれ、大人になっても貧困から抜け出せない傾向があり、子どもの貧困問題への対応は喫緊の課題である。市町村等とも連携して行政側から積極的に働きかけるアウトリーチ型(※1)の支援をすべきではないか。

**答** 学習支援なども含めて実験的に取り組んでいるところやアウトリーチ型に関心を持った市町もある。

こども食堂や医療現場などの関係者と情報を共有しながら、アウトリーチ型を強めていけるようモデル事業について新年度で考えてみたい。

### 「境港」の整備について

**問** 境港への大型クルーズ船の寄港が急増する中、4年後に竹内南貨客船ターミナルが供用開始されると、米子・松江方面に向かう車で大渋滞を引き起こすことが予想される。境港からの物流強化、大型クルーズ船旅客の県内1日観光エリアの拡大、原子力災害時等の避難対応などの観点から、早期の道路整備が不可欠であるが、知事の所見を伺う。

**答** 鳥取県が持続的な発展を遂げるためにも、この周辺地域のインフラ整備が不可欠である。短期的な対策として、現在、竹内団地の臨港道路、国道431号との交差点付近の交通ネットワークの円滑化の基礎調査をしている。また、米子-境港間の南北の交通量が非常に多く、アクセス強化、物流、観光の効率化のためにも境港と米子を結ぶ高規格道路は非常に重要なものと認識している。地元合意のもと、道路の必要性、妥当性を具体的に訴えかけて、計画の凍結解除をしていくことが必要である。

### 次世代授業の取組について

**問** 本県では、次期学習指導要領を先取りする形で、アクティブ・ラーニング(※2)の導入を積極的に推進している。教える側の力量が求められ、教師の負担が大きく準備も含めて授業にたくさん時間がかかるといった意見もあるが、課題や解決に向けた今後の対応方針について伺う。

**答** (教育長) アクティブ・ラーニングをより効果的に実施するために、タブレット型の端末などICT機器の活用も必要であると思っている。また、特別な支援を必要とする生徒に対する指導方法など、幅広い手法の研究をしていく必要がある。本年度から教職員にも参画してもらいながら、21世紀型の学力検討委員会を設置し、この中でアクティブ・ラーニングの研究ワーキンググループもつづけている。また、指導案や校内の研修計画等のモデルを作成したり、教員間のネットワークを構築する手法などを検討して実施に移していくなど、授業の考え方、手法を着実に全ての教職員に広げていきたいと考えている。

※1 アウトリーチ型 … 援助が必要であるにもかかわらず、自発的に申し出をしない人々に対して公共機関などが積極的に働きかけて支援の実現をめざすこと。

※2 アクティブ・ラーニング … 授業者が一方向的に学生に知識伝達をする講義スタイルではなく、学生の能動的な学習を取り込んだ授業の総称。